

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 1 区分
【発行日】令和 4 年 12 月 21 日(2022.12.21)

【公開番号】特開 2019-90796(P2019-90796A)
【公開日】令和 1 年 6 月 13 日(2019.6.13)
【年通号数】公開・登録公報 2019-022
【出願番号】特願 2018-206233(P2018-206233)
【国際特許分類】

G 0 4 B 19/253(2006.01)

10

【F I】

G 0 4 B 19/253 G

【誤訳訂正書】
【提出日】令和 4 年 11 月 28 日(2022.11.28)
【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

駆動装置(100)であって、前記駆動装置は、被駆動要素(4)を駆動するための駆動モバイル(10)を含み、前記駆動モバイルは、軸(A1)周りに回転可能に搭載されることが意図され、

サポート(11)と、

前記被駆動要素を駆動するための第 1 側面(f11)と、

前記駆動モバイルを後退させる作用を受けるように配置された第 2 側面(f12')と、

前記被駆動要素(4)を制動するための第 3 側面(f12)と

を含み、

30

前記モバイルは、前記第 2 側面を前記サポートへ接続するスライドリンク(111、121; 11、120; 110、120')を含む、駆動装置。

【請求項 2】

前記駆動装置は、時計カレンダーシステム(200)用の駆動装置である、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記被駆動要素(4)は、カレンダー要素である、請求項 1 または 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記第 2 側面(f12')は、前記軸(A1)に対して直角放射状または実質的に直角放射状に延長する、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の装置。

40

【請求項 5】

前記第 2 側面は前記第 1 側面に連結される、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 6】

前記モバイルは、前記第 2 側面を静止位置へ向かって戻す弾性戻し要素(12c)を含む、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 7】

前記弾性戻し要素(12c)は、ばねを含む、請求項 6 に記載の装置。

【請求項 8】

前記ばねは、開放環の形状のばね及びまたは第 1 端部に前記第 2 側面を有し第 2 端部に

50

前記サポートへの連結を有するばねである、請求項 7 に記載の装置。

【請求項 9】

前記スライドリンクは、前記第 2 側面を有する要素上に生成されるピン（120'）と、前記サポート上に生成されるスロット（110）を含む、または前記スライドリンクは、前記第 2 側面を有する要素上に生成されるスロット（120）と、前記サポート上に生成されるピン（11）とを含む、請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 10】

前記スライドリンクは、前記第 2 側面を有する要素（12a）上に生成される第 1 面（121）と、前記サポート上に生成される第 2 面（111）とを含む、請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の装置。

10

【請求項 11】

前記第 1 側面は平面または実質的に平面または湾曲した第 1 表面を示す、及びまたは前記第 2 側面は平面または実質的に平面または湾曲した第 2 表面を示す、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 12】

前記第 1 側面は、前記軸（A1）に対して半径方向にまたは実質的に半径方向に延長する、請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 13】

前記第 2 側面は、前記モパイルの後退側面である、請求項 1 から 12 のいずれか一項に記載の装置。

20

【請求項 14】

前記第 1 側面は、前記サポートに対して前記軸周りに角度的に固定または実質的に固定される、及びまたは前記第 3 側面は、前記サポートに対して前記軸（A1）周りに角度的に固定または実質的に固定される、請求項 1 から 13 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 15】

前記サポートは、カレンダーカム（2）に固定される、請求項 1 から 14 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 16】

請求項 1 から 15 のいずれか一項に記載の駆動装置と、被駆動要素とを含む、時計カレンダーシステム（200）。

30

【請求項 17】

前記被駆動要素は、カレンダーインジケータモパイルである、請求項 16 に記載の時計カレンダーシステム（200）。

【請求項 18】

前記被駆動要素は、月の日にちを表示するディスクである、請求項 16 に記載の時計カレンダーシステム（200）。

【請求項 19】

請求項 1 から 15 のいずれか一項に記載の装置、及びまたは請求項 16 から 18 のいずれか一項に記載のシステムを含む、時計ムーブメント（300）。

【請求項 20】

40

請求項 1 から 15 のいずれか一項に記載の装置及びまたは請求項 16 から 18 のいずれか一項に記載のシステム及びまたは請求項 19 に記載のムーブメントを含む、時計（400）。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

装置の各種実施形態は、請求項 2 から 15 に規定される。

50

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

本発明にかかるカレンダーシステムは、請求項16から18に規定される。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

本発明にかかる時計ムーブメントは、請求項19に定義される。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

本発明にかかる時計は、請求項20に定義される。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

駆動装置は、被駆動要素4、とりわけカレンダーディスク4を駆動するための駆動モバイル10を含む。駆動モバイルは、軸A1周りに回転可能に搭載されることが意図される。モバイルは、

- サポート11と、
- 被駆動要素を駆動するための第1側面f11と、
- 駆動モバイルを後退させる作用を受けるように配置される第2側面f12'、とりわけ軸A1に対して直角放射状または実質的に直角放射状に延長する第2後退側面f12'とを含み、モバイルは第2側面をサポートに接続するスライドリンク111、121を含む。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

好みにより、第2側面は、軸A1に対して直角放射状または実質的に直角放射状に延長する。第2側面は、軸A1に対して直角放射状の方向から30°より小さい角度を作るように、延長してもよい。有利には第2側面はまた、軸A1に平行にまたは実質的に平行に延長する。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0044

【訂正方法】変更

10

20

30

40

50

【訂正の内容】

【0044】

好みにより、剛性第1部材11は、図6に示すように、有利にはカレンダー駆動爪を構成し、ディスク4の歯4aと直接接触するよう設計された側面f11を含む。このため、第1部材の剛性により、駆動部材1はディスクの駆動中、不必要な変形を経験することなく、このためディスク4に対して、軸A1に対して直角放射のまたは実質的に直角放射であって、その向きが歯4aを基準として一定または実質的に一定である力Fを伝達する。この一連の動作中、弾性部材12は、ディスクになんら影響も及ぼさない。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

10

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

(図7に図示するように)日付ジャンプが起こると、ディスク4は歯4aと並んで存在する歯4bを介して部材1により制動される。歯4bは、第2弾性部材12の頭部12aの第3停止側面f12に対して当接し、また第2弾性部材12は、軸A1に対して直角放射のまたは実質的に直角放射の反力F'の影響により、剛性第1部材11に対して当接するまたは当接可能である。この一連の動作中、弾性第2部材12のばね12cは、なんら影響を及ぼさない。このため、部材1は、要素11及び12aがディスク4の歯列の中の2つの歯4a、4bの間に位置するディスク制動中、不必要な変形を経験しない。

20

30

40

50